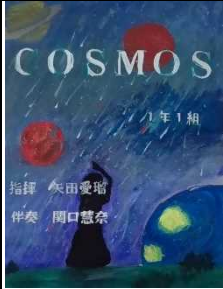
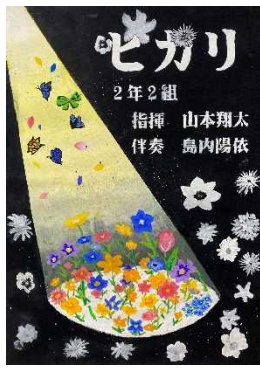


1年生ポスター	ポスターに込めた想い
	果てしなく広い宇宙のような曲想です。ポイントはサビのクレッシェンドです。だんだんと声量を大きくし、団結力と迫力を意識して練習してきました。絵は広く綺麗で雲一つ無い遠くまで続くような空をイメージして描きました。
	「旅立ちの時」は、悲しい別れではなく、明るく前向きな別れをイメージした曲になっています。また、曲調も盛り上がる場所があり、とても元気づけられます。ポスターの中で特に注目してほしいところは、手前にある「ネモフィラ」という花です。「ネモフィラ」の花言葉は「どこでも成功」と、まさに曲にぴったりな花となっています。
	この曲は、私たちが生まれた星である地球の美しさ。そして、同じ星に生まれたみんなが共に夢を叶えようという意味が込められています。なので、この絵も自然の雄大さや夢に向かって力強くはばたいていく様子をイメージして描きました。鳥をはみ出して描いたことで、迫力のある絵にしました。また、雲や虹を使って遠近感を表現しました。
	「時を越えて」は、全体的に曲想があまり変わらず、優しくゆったりとした感じなので、明るい雰囲気のパosterにしました。他にも背景の太陽は歌詞に出てくる「夢」をイメージし、周りに飛んでいる白い鳥は、「夢」を追っている歌詞の中に出てくる「君」をイメージしました。また、手前にいる時計を持っている鳥は私たち歌い手です。曲想に合わせて、のびのびと歌います。
	「遠い日の歌」は同じ旋律の追いかけ合いが、美しいハーモニーを生み出す優しい歌です。ポスターには「燃える思い」が満ち溢れて、ときめいている様子を描きました。「遠い日の歌」がキーポイントになり、「迷い」が、「燃える思い」に変わっていくので、「遠い日の歌」とは、「希望の光」なのだろうと考え、中心に大きな光を描きました。光がキラキラ輝いて見えるように絵の具を散らせ工夫をしました。雲は迷いを、ゆれる草やかみの毛はさわやかな風が吹いていることを表現しています。
	この曲は若松欽さんが作詞・作曲した曲です。「友情」「どこまでも続く道」という曲想から、お花畑の道に二人が手をつなぎ歩いているという風景を描きました。特にひまわりを白など混ぜ、輝いているように見せました。花の細かなところまでグラデーションをつけ、立体的に見えるように工夫したので注目して見てみてください。

2年生ポスター	ポスターに込めた思い
 友 ～旅立ちの時～ 2年1組 指揮 田中 樹莉 伴奏 中野 瑛介	この曲は題名にもある通り、「友」を想い、一人一人が明るい未来への扉を開いていくという思いが込められていると感じました。 背景を内側に向け、白く、周りを青色で塗り、思い出と共に未来への道を切り開いていく様子表現しました。
 ヒカリ 2年2組 指揮 山本翔太 伴奏 島内陽依	コンセプトは「枯れた大地に咲きほこる花々と光」です。「枯れた大地に独り」という歌詞と「もしも花々が咲き乱れ蝶達は舞い」という歌詞から、「枯れた大地での絶望の中に咲き乱れた光の花」ととらえました。枯れてしまった花を白黒で、光の花を鮮やかな色で表現することで1つの作品の中で「陽と陰」をつくり出しました。黄色と白を織り交ぜて、グラデーションにし、「一筋の光」を表現しました。
 虹 2年3組 指揮 福嶋未希子 伴奏 大木菜々子	歌詞にある「雨上がりの坂道」をイメージして、空を暗めの色を使い、虹を強調させたくもり空を表現しました。力強く芽吹くヒナゲシを表現するために色を濃くしました。 曲想はゆっくりとしたおだやかな感じですが、「喜び」と「悲しみ」や「出会い」と「別れ」などの対象的な表現になっていて背中を押すような歌詞になっています。
 証 2年4組 指揮 山本翔太 伴奏 島内陽依	「虹」という曲は、大切な人との別れを悲しみ、不安に思う気持ちと向き合いながら、いつしか悲しみから抜け出し、大切な思い出を胸に前を向いて生きていこうと心に強く決意していく曲です。このポスターは歌詞の一部にある「追憶の欠片を敷き詰められたノート」から書庫にあるたくさんのノートをイメージして描きました。また、メインの1つである鳥は、輝く未来に羽ばたいていくという意味を込めました。
 ほらね 2年5組 指揮 ムラマツ幸輝 伴奏 平野 杏奈	この曲は、「ほらね僕らは一人じゃない きっとね誰も一人じゃない」と歌詞にあるように、優しく寄り添い、そして励ましてくれるような温かい曲です。 そして、「ほらね、」から感じる優しさをポスターで表現しました。見た人が温かい気持ちになるように淡い色で花や空を塗ったり、暖色を多く使ったり、様々な工夫を凝らしてつくり上げました。

3年生ポスター	ポスターに込めた想い
	想いを言葉にすれば何かが変わる。私達がめぐり逢い3年間。共に思い出を紡いでくることができたのは1人1人の言葉、想いがつながり、「愛」が生まれたからではないでしょうか。この曲はどんなにくじけそうな時も決して1人じゃない。言葉にすることの大切さをそっと教えてくれるような曲です。壇上に立ち、1人1人の前にマイクが立つ。皆が主役であるのが合唱だという気持ちをポスターに表現しました。歌という“言葉”でめぐり逢い、音と絆を紡いできた私達3年1組、たくさんの愛を胸に今、言葉を届けます。
	「親知らず子知らず」は全体的に暗い部分が多く、緊張感があり、場面の移り変わりが激しい曲です。 この曲では、母と子が父に会いに行く途中で、大波にさらわれ、手が離れてしまい、お互いを呼び合う場面が歌われています。 彼岸花で悲しい思い出などを連想させ、黒い蝶で不吉な存在を表し、背景は海を描き、この曲の解釈に合うようにしました。
	この作品は、曲の歌詞などに注目して描き上げました。右側に描いているハトとデイジーは幸せ・平和の象徴であり、「あまねく平和と幸せ」という歌詞を表しました。左側のシルエットは歌に出てくる「あなた」であり、「先を歩いていった・あなたの残した」などの歌詞から後ろ姿を描き、背景を黒くしました。地球の部分はスパッタリングを少し行い、星々を表現しました。この曲は先に向かって未来へ一歩踏み出す歌なので、手を上に向け、上から光を出し、よりよい未来へ向かおうという意味を表しました。
	この作品は、木曽三川流域、岐阜県西濃地方、水の都と呼ばれる大垣市にある南中学校が作曲家黒澤吉徳さんに依頼し、1993年に発表された混声合唱組曲のうちの1曲です。 「水が生まれ、川となって流れ、海に帰り、そして水の翼となり、新しい旅に出る」という壮大な流れを人生に例えています。 前半のエネルギーでキラキラとした曲想と後半ののびやかで暖かな曲想の対比が鮮やかで本格的な混声四部合唱の響きが味わえます。
	「青い鳥」という曲にふさわしい、空へ羽ばたく青い鳥を描きました。青い鳥は光の方へと向かっていきます。光の先には何があるのでしょうか。そこにあるのは「幸せ」です。幸せの形は人それぞれです。自分の理想があるのかもしれません。大切な人と過ごす日々があるのかもしれません。みんな、自分だけの光を求めて旅立ちます。でも、私達は必ずいつかめぐり逢う。私達の幸せは、すぐそばにあるから。大切な人達は、自分のすぐそばにいてくれるから。
	この曲は「どんなに辛くても、歌はどんなときも寄り添ってくれる」という意味が込められているので、作品には「どれだけ闇に落ちても、必ず何かが寄り添ってくれる」という意味を込めました。人の肌が宇宙のように表現されているのは、無限に広がっている可能性や希望を表したかったからです。また、宇宙のように、何色にでも染まられるという意味も込められています。鳥の影も、鳥をはっきり見せられるように、少し薄くしました。背景は歌詞に沿って空にしました。
	この曲は、学生たちに向けての曲となっています。ポスターでは「さあはこぶねにのって」と「あのノアたちのように」という歌詞から、ノアの箱船が海を渡っている様子を表現しました。また、日の光を入れることで学生への明るい未来を表現しています。風の色をカラフルにすることで、それぞれの未来に歩いていっている様子を表しました。「ひとつの朝」は応援などの気持ちが込められているため、全体的に明るい色をつかって、見るだけで元気をもらえるような作品に仕上げました。最大のポイントは、鳥たちを私達と重ね、未来へはばたく様子を最大限に表現しました。

